紅い眼鏡
押井 守監督作品
企画―紅い眼鏡・製作委員会
製作・配給　株式会社オムニバスプロモーション
ILLUSTRATION by YUJI KAIDA

押井さんについて

あるアニメーション映画の企画がつぶれて、ポカッと前に穴があいた。自分の脚本で押井さんが監督をするはずだった。ウサバラシにぼくのボロ車に乗って、二人でワーッと知床までつっ走った。

オホーツクに面する人気の無い河口にアジサシが舞っていた。砂の中に埋もれかけた突堤の先に座ると、風にのったアジサシ達が目の前でほとんど静止して、やがて水中の小魚に突進する。くり返し、くり返し突進し、また空中に舞いあがる。彼はずーっとそれを見ている。座り込んであかずに見ている。

砂浜に何十羽もの海ネコだか、カモメだかミズナギドリだかがたむろしている。ぼくは砂に足をとられながらヨタヨタと群へ走る。鳥達がみんなこっちを見ている。ギリギリまで待ってから、彼等は風にのって舞い上がる。がたちまちむこうの砂浜におり立ち、みんなこっちを見ている。

あえぎながら、ぼくがもどって来ると、彼はまだアジサシ達を見ていた。

ホッケのひらきを山ほど買って、家でムサボリ食うんだという押井さんをのせて、一気に南へかけ下って東京にもどったら、ぼくはすっかり腰痛になっちまってた。

ぼくは実写映画に関心も興味もない。時たま、ほんとに時たまの気まぐれな観客の立場から出る気はない。だから、押井さんが映画少年をいまだにひきずっているのを見ると、アニメーションの監督を実写の人がやるような違和感しか感じない。

うる星やつらの「ビューティフルドリーマー」、マンガ「とどのつまり」、抽象性の高い「天使のたまご」、実写「紅い眼鏡」と観て来て、彼が何を考えているかは、「紅い眼鏡」に、いちばん、はっきり表現されていると思った。

でも、ぼくはふみこまないのは好きじゃない。アタルはラムとの距離を保ちつづけ、とどのつまりの青年は、アリスらしき鼻たれの少女と結局どんなかかわりも持たない。天使のたまごの青年と少女も、彼がどんなに語ろうと同じようにしか感じられない。紅い眼鏡を観ている内に、70年のバリケートの中にいる高校生の彼が、俺にとって現実と呼ぶに価するのはこの瞬間だけだといまも叫んでいる気がした。

押井さんの登場人物が他者に手をさしのべ、ウソッパチでもその時だけの真情でも、気まぐれでもいいから、他人と泥くさいかかわりをジタバタする作品こそ、ぼくは観たい。

押井守は才能ある演出家だ。だから、あのつぶれたアニメーションの企画を、今もぼくはあきらめずに、機会をうかがいつづけようと思っている。

宮崎　駿

「紅い眼鏡」の公開に寄せて

幸せなことだ。

私共が初めて創りあげた映画「紅い眼鏡」が公開のはこびとなった。

静寂な闇の中に身を沈め、日常の空間が劇的空間に変容する、あの一瞬の心のときめきに似た気持が、公開の近ずくにつれて高まって来ている。

わずらわしさにとらわれる事なく、〝創りたい〞作品を自由に〝創ろうや〞、という精神でこの映画を創り始めた訳だが、何せ製作元が極小零組プロダクション、或る実写の監督さんをして、この予算で35ミリの映画を創る？〝お話にならん、撮れるものなら撮ってみろ〞と云わしめた超低予算の中でもがき続けて撮り終えた作品だ。だからこそ、この作品に損得抜きで参加してくれた押井監督を始めとする総てのスタッフ、キャストの方々のぎりぎりの体力と智力が、一つ一つのカットに不思議な輝きを与えていると、得心している。

しかし、それにしてももう少し………否、公開する以上言い訳は許されない。俎の上の鯉、観客の皆様の厳しい御批判を仰ぎたいと思います。

微力な私共を盛りたてて下さったスタッフキャストの皆様に重ねて感謝すると共に、公開にさいして、多大の御尽力をいただいたシネセゾンの市井さんに篤く御礼を申し上げます。

オムニバスプロモーション代表　斯波重治

「紅い眼鏡」企画原案

紅い眼鏡（I案）——機甲警察隊秘話

●登場人物

千葉繁こと都々目紅一　元機甲刑事1号
通称レッドワン
現声優。

鷲尾桃子　同　2号
通称〝桃色2号〟
現ダンサー（ダンス教師）。

青野六郎　同　6号
通称〝蒼の6号〟
現雀士（裏プロ）。

室戸文明　警視庁公安課刑事。

その他　声優、演出家、悪党多数。

●物語

—199X年

激増する都市犯罪とその凶悪化に対抗し、警視庁はその部内に〈対凶悪犯罪特殊武装機動特捜班〉を創設。警察官の内より知力、体力に優れ時に正義感の篤い者を選抜して、その構成員に充てた。特殊強化服と重化器で武装した彼らは〈機甲刑事〉と呼ばれた。しかし彼らの犯罪者に対する活動は悪を憎むあまり、峻厳を極めその非情ともいえる行動に世論の非難が集中、折しも特捜班のメンバーが軽犯罪者を撲殺する事件が発生するに及び、その組織の解体の止むなきに至ったのである。けだし云々…。

塩沢庄兵衛　著『刑事警察機構全史』
第四章ノ凶悪犯罪との闘争
補遺　機甲刑事の栄光と没落より

——そして数年

かつて機甲刑事1号、その凄腕と燃える様な正義感で、犯罪者たちに悪魔の如く恐れられた都々目紅一も、今はその職を追われ声優として生計をたてる身の上であったが、その過剰ともいえる正義感をいかんともし難く鬱屈の日々を送っていた。

秘かに私的徴罪組織として〈機甲刑事〉の復活を目論むが、かつての仲間たちも今は小市民としての日常に埋没し、あるいは犯罪者たちの報復に脅え日陰者に身をやつしていた。

そして仲間を訪ね歩く紅一の背後には、常に公安課刑事、室戸文明の監督の目が…。今や紅一自身が国家権力にマークされる要注意人物なのである。

〈正義〉とは何か、そして〈悪〉とは？

いつしか文明の胸にも紅一への共感が目芽える。そんな時、紅一の誘いを拒否しつづけていた、青野六郎が強化服を着用して暴徒達と乱闘のうえ全員を惨殺。六郎自身も警視庁の狙撃班に射殺される。しかしそれは当局の巧妙な〈機甲刑事狩り〉のワナであった。遂に紅一は単身、対国家権力、対市民社会全面戦争を決意する——。

「紅い眼鏡」はこうして企画された——

押井 守

この映画の企画の発端は、千葉繁くんのプロモーションフィルムを作ろうということからでした。

千葉くんは「うる星やつら」でメガネというキャラクターの声をやっていました。メガネというのは高橋留美子さんの原作では存在のうすいキャラだったのですが、千葉くんのノリで、こっちも面白くなってどんどんレギュラーとしての存在を大きくしていったわけ。

そこで「うる星」の音響を担当されていて「紅い眼鏡」の製作母胎でもあるオムニバス・プロモーション代表の斯波重治さんが、千葉くんで何かをやろうと言い出した。初めはメガネのイメージで歌を作ってくれということだったが、そうこうしているうちに、千葉くんを売り出すためのプロモーションビデオを作り、その中に5分位のアニメを入れようということになった。せっかく、ひきうけたのなら、ドラマがあった方がいい。そしてアニメより実写、それもビデオじゃなくて16mmフィルムで撮ろうと話はどんどんエスカレートしていった。

まあ、この時点では、あくまでも〝遊び〟の映像であり、千葉くんのファンクラブなどで自主上映してもらうような作品のつもりだったのですけど……でも、実写を撮れるチャンスなんてそうないだろうから、ちゃんとした映画にしてしまおう、それも以前から興味があったアクション映画にね。

脚本をやってくれた伊藤和典くんが「特撮映画にしたいなあ」なんて言い出すもんだから、最終的には90分ぐらいで35mmで撮るというところまで発展してしまった。それにつれて予算の方も、どんどんエスカレートするもんだから、初めはニコニコしていた斯波さんも、そのうちに顔がひきつってきてしまって……。

アクション映画といったけど、最初に考えたのはハードな雰囲気の中で洗面器でなぐりあうようなドタバタな作品でした。まあ、B級映画本来の面白さというのかな、最近ビデオになった鈴木清順監督の「殺しの烙印」（'67年・日活）みたいな作品ね……。

僕は〝映画〟というものは基本的に〝アクション〟だと思うんです。本質的なものをどんどん浄化して行くと、「これが映画なんだ！」という価値感はアクションにあると行きついてしまう。でも、完成した「紅い眼鏡」は見てみると、当初ねらっていたギャグタッチのものではなく、普段から自分が考えていたことから、そう離れられなかったというのが正直な感想です。

とにかく、この映画はスタッフ、キャスト、関連の方の惜しみない協力によって完成したものです。製作開始から一年あまり、公開にこぎつけたことを感謝しています。

（'87年1月24日・談）

紅い眼鏡の渡り鳥（II案）——風紋の街でありがとう

●登場人物

都々目紅二　流れ者　元機甲刑事

鷲尾桃子　ナイトクラブの雇われママ

青野六郎　殺し屋　実は桃子の実弟

室戸文明　麻薬Gメン　実は組織の殺し屋

波羅多喜一郎　街のボス　実は麻薬シンジケートの黒幕

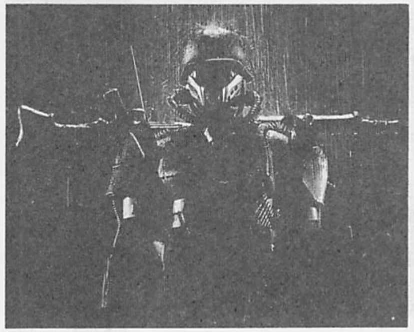
●物語

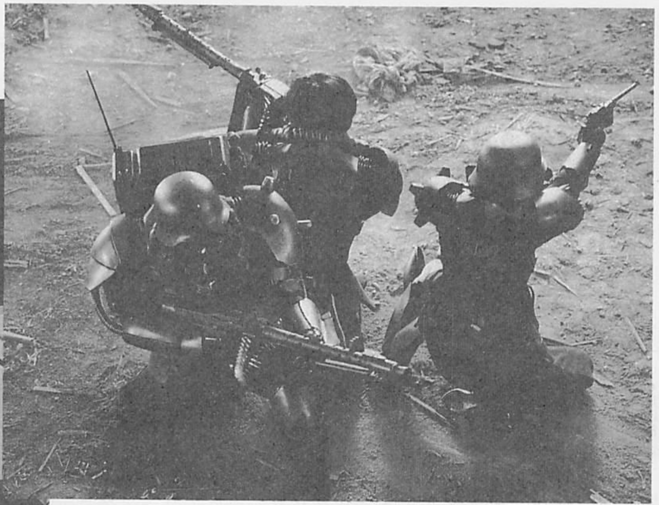
——とある港町。

流れ者の紅二がふらっと訪れたこの港町も、御多分にもれず麻薬と売春をめぐって暴力団が抗争を重ね、ナイトクラブのママが借金のカタに店の権利を脅やかされつつ、ブルースを唄っていた。ひょんなことからナイトクラブ「ドドンゴ」のママと知り合った紅二は店の権利を狙う、街のボス波羅多喜一郎派と事を構えるハメに陥いる。彼をつけ狙う殺し屋、青野六郎との奇妙な友情、そして「ドドンゴ」のママ桃子との哀切な恋——。

しかし東京からやって来た麻薬Gメン室戸文明の登場によって状況は一変する。彼が語る紅二の秘密。紅二こそはかつて波羅多喜一郎の手にかかって死んだ、桃子の婚約者、紅一の実弟であり、機甲刑事の職を辞して復讐にのり込んできたのだった。しかしあろうことか殺し屋青野六郎は桃子の実弟であり二人の父こそ波羅多喜一郎その人であり、更にあろうことか、紅一、紅二兄弟の父なる人の実弟こそが、かくいう室戸文明その人であり、更にあろうことか室戸文明は波羅多喜一郎一派の上級組織、香港コネクションの空手使いの殺し屋であり、そして実は波羅多喜一郎が満洲浪人であった時代の落とし種であったのである。ここに至って紅二の復讐は血縁の壁の前に八方塞がりとなるが、とある夜露の夜、紅二と室戸文明は遂に対決する。昨烈する紅二の強化服のパワー。対決を終えて一人去る紅二の背中に桃子の哀切の声が響く。

〈完〉





「紅い眼鏡」企画書(決定稿)

映画『紅い眼鏡』へむけて ——〈娯楽映画〉の可能性の為に

わずか二、三時間の為にいかに多くの宮殿と幻影の都市が、いかに多くの新しい廃墟が建てられたことか! 昔、ハリウッドではベニヤ板と漆食い塗りの都市や偽の街路を人に見せていたが、ペンキ屋が描いた人工の錆は時間の錆で覆われていた。かつては過去を模造し後年になっては、いかにもカリカチュアの姿を呈して、現在は形もなくなった虫食いの安普請の建物の間でオランピオは夢を見たのであろうか。フィクションか現実か。メリエスかリュミエールか。我々が生きたと信じる現実の世界は我々の回想のなかで幻影の世界といりまじるのである。

ルネ・クレール

◀高田明美さんのデザインによるケルベロス隊の紋章。

●物語

199X年

激増する都市犯罪とその凶悪化に対抗し、警視庁はその内部に〈対凶悪犯罪特殊武装機動特捜班〉を創設。警察官の内より知力・体力に優れた正義感の篤い者を選抜して、その構成員に充てた。特殊強化服と重火器で武装した彼らは〈機甲刑事＝PAZER COP〉と呼ばれ犯罪界に対し、その果敢な挑戦を開始したのである。

しかし、彼らの行動は悪を憎むのあまり峻厳を極め、その非情ともいえる捜査活動に世論の非難が集中し、折しも特捜班員による軽犯罪者撲殺事件が発生するに及び、その組織の解体のやむなきに至ったのである。

けだし云々…。

塩沢庄兵衛 著『刑事警察機構全史』
第四章/凶悪犯罪との闘争
補遺 機甲刑事の栄光と没落より

——そして数年。

〈特捜班〉解体時にただひとり武装解除を拒否し、その装備一式と共に国外逃亡を果たした男。その凄腕と燃えるような正義感で犯罪者たちに悪魔の如く恐れられた男、都々目紅一。

その紅一が、かつて戦いに傷つきそしてその身を追われたこの街に真紅のプロテクトギア[*1]と共に帰ってきた。

何のために、何を求めて…

組織の再建か、あるいは権力への復讐か?

かつての同志を訪ね歩き、その栄光の日々の記憶を語る紅一の真の意図は何か。張りめぐらされる陰湿な罠、裏切り、凄惨な拷問。

そして、宿命の女(ファム・ファタール)＝赤い少女との出会い。

札束と鉄拳と羊かんの乱れ飛ぶ夜の巷に、権力の走狗。立ち喰いのプロ転向者の群れが綾なす一大暗闘絵巻。

〈正義〉とは何か、そして悪とは?

虚構渦巻く非現実の都、魔都＝メガロポリスの闇を紅一の怒りが切り裂く。

●登場人物

都々目紅一 元機甲警羅隊員。〈赤いケルベロス〉あるいは〈トドメの紅一〉等の異名を持つ。最後の機甲刑事。

鷲尾みどり 紅一のかつての同僚。エアロビクスインストラクター。健啖家。

鳥部蒼一郎 紅一のかつての同僚。ハスラー。

月見の銀二 立ち喰いのプロ。情報屋。

室戸文明 警視庁公安課刑事。

〈赤い少女〉 宿命の女〈ファムファタール〉

〈対話タクシー〉の運転手

その他、愚連隊、暴力団員、悪党多数。

「紅い眼鏡」撮影日記

3月29日(土) 本郷スタッフルームにて、カメラテストをかねた劇中劇——映画館内で上映されるみどりの告白、蒼一郎の告白、少女映画——撮影。このときのラッシュにより、本編はモノクロネガ、カラープリントと決定。

4月5日(土) 実質上のクランクイン。東京現像所内で、紅一の脱出シーンからスタート。夜、三鷹へ移動。跨線橋で〝迷宮〟パートI、紅一と少女。その後、近くの地下道に再移動。鷲尾舞踊研究所を出た紅一。撮影終了、午前四時。

4月12日(土) 午後九時、大森西友集合。キネカ大森へのエレベーターを空港のそれに見たてる。

4月13日(日) 小田急線新百合ヶ丘駅前を空港ターミナルとして撮影。紅一と文明の最初の接触、対話タクシー登場。全編が夜の映画のため、撮影のピークは深夜になる。

4月14日(月) 日没を待って百合ヶ丘で〝迷宮〟パートII、階段。たまたま近くで建設中のマンションに明りが入っていたので実景として拾う。このカットは階段状都市として生かされた。

4月18日(金) 映画館のシーン撮影のため山形県上山市へ移動。この時期、東京サミット厳戒態勢下にあり羽田空港での撮影が不可能だったために、山形空港へロケハン。

4月19日(土) 上山市トキワ館にて、映画館内のシーン。

4月20日(日) 前日にひきつづき映画館内——紅一と文明、および蒼一郎。途中、夕方到着便の旅客機を撮るために山形空港へ移動。バタバタと空港の紅一を撮影。映画館に引き返して残りを消化。映画館前の紅一が山形ロケのラストカットとなった。

4月27日(日) 小平にある廃工場で、訊問パートI・ごちそう編、および文明とトロッコ。ついに、撮りこぼしが出る。

4月28日(月)小平廃工場にて蒼一郎の部屋。

4月29日(火) 関町城西ゴルフセンターの駐車場を使用して、対話タクシーの中の少女、運転手を紅一の対話。ゴルフセンターの営業終了を待って撮影開始……じわじわと撮りこぼしが増えていく。

5月10日(土) 横浜オリエンタルホテル、午前八時集合。フロントのおやじと紅一等。

5月11日(日) 横浜オリエンタルホテルにて、現場検証。トランクを開ける蒼一郎等。

5月12日(月) 小平廃工場、第2ラウンド。午前中を立ち喰いそば屋のセット作りにつぶされて、午後から撮影。すさまじいホコリとの戦いになる。夕食後、紅一の蒼一郎救出。しかし——またしても撮りこぼし。スタッフはこの三日間を〝地獄の三連戦〟と呼んだ…。

5月17日(土) 午後七時より、茗荷谷キリシタン坂にて〝迷宮〟パートIII。この日の予定カット数わずか6カット。さすがに、スタッフの表情も明るかったりする。現金なものである。

5月18日(日) ニュージャパンスタジオでオールキャストのカラオケ大パーティー。ただし、このシーンは尺数の関係で、そっくりカットされた。夕方から劇団〝青社〟の稽古場を使って鷲尾舞踊研究所での紅一とみどり。

5月19日(月) 江古田のビリヤード場を借りきって、ハスラー蒼一郎。その後、東映大泉に移動して対話タクシー運転手と紅一の対話、撮りこぼし分をすべて消化。

5月24日(土) 監督いわく「天はわいらの味方や」撮影中、ずっと天気にだけは恵まれてきたことをさしている。この日はヘリコプター撮影の日だった。風が強かったが無事、空撮を終えて、神田川で、紅一逃走のイメージシーン。撮影開始以来、ずっと紅一と一緒だったトランクが水に濡れて崩壊寸前になる。いよいよ大詰めだ。

5月25日(日) 小平廃工場、最終ラウンド。訊問パート2、磁石編、および、みどりによる紅一救出。舞踊研究所、ドアごしの攻防。廃工場内の工場脱出——等。

5月26日(月) 有明スタジオ裏の工場跡で、戦闘シーン撮影。デイシーンのため、この日は日没までが勝負となる。大勢のエキストラが必要なカットを優先的に撮影。

5月27日(火) 東京湾13号埋立地、午前2時集合。空が白みはじめるのを待って、本編のラストカット、橋の向こうに消える対話タクシーを撮影。本来ならば、このカットが撮影のラストカットになるはずだった。

6月14日(土) 有明スタジオ裏、工場内で戦闘シーンの残り。夜に入って〝迷宮〟パートIV、ケルベロスと紅一の対面。その後、国際放映スタジオに移動、半端になっていた蒼一郎救出を1カットで処理。そして、翌6月15日、早朝、五時二十分撮影終了——ラストカットはトランクいっぱいの紅い眼鏡だった。

(構成・伊藤和典)

紅い眼鏡

作詞/丸輪 零

一、幼い日々の記憶を埋めた
ほこりまみれの夢のあと
土管の迷路をくぐりぬけ
斜に構えた露地をぬけ
顔も忘れた友の名呼んで
遠いあの日の帰り路
涙流せば水族館
泣いて走れば走馬灯
見知ったはずの迷子の街で
駆け寄る母の若い胸
赤い夕日に染めわけられた
おまえは小さな異邦人

オニグモの目はいくつ
六つと二つで八つ
ヤンマの目はいくつ
三つと二つで五つ
哀しい男の目はいくつ
二つと二つで四つ

二つは幼い心を映し
二つは見知らぬ世を映す
あゝ眼鏡
されど眼鏡
いつか遠い街角で割れちまった
オレの真赤なメタルフレーム

二、季節はずれの乱闘服に
我が身包んだ夢のあと
親の監視をくぐりぬけ
マルキの規制の裏をかき
ガスに巻かれた渦巻きデモの
警告流れの集会場
涙流せば水族館
泣いて走れば走馬灯
見知ったはずの迷路の街で
打ち振る旗の赤い星
炎ビンの炎に染めわけられた
おまえは狂気の異邦人

オニグモの目はいくつ
六つと二つで八つ
ヤンマの目はいくつ
三つと二つで五つ
哀しい男の目はいくつ
二つと二つで四つ

二つはひきつる心を映し
二つは見知らぬ世を映す
あゝ眼鏡
されど眼鏡
いつか遠い街角で割れちまった
オレの真赤なメタルフレーム

三、まだ逢いもせぬ少女の手紙
待ちくたびれて夢のあと
毒を食らって全力疾走
皿も食らって無我夢中
好いても好かれぬ不合理に
我が身滅ぼす自虐の炎
涙流せば水族館
泣いて走れば走馬灯
見知ったはずのあなたの街で
捜しつづけた赤い靴
見果てぬ夢に圧しつぶされた
おまえは不在の異邦人

オニグモの目はいくつ
六つと二つで八つ
ヤンマの目はいくつ
三つと二つで五つ
哀しい男の目はいくつ
二つと二つで四つ

二つはせつない心を映し
二つは見知らぬあなたを映す
あゝ眼鏡
されど眼鏡
いつか遠い街角で割れちまった
オレの真赤なメタルフレーム

疾風怒涛音頭

作詞/丸輪 零

敗者は正義と共に去り
勝者は喝采を浴びて起つ
歴史よおまえは私に何を試みるか
それは判らないが
拳銃は常に最後の武器なのだ
(異議ナシ!)
シュトルム ウントゥ ドランク(あソレ!)
シュトルム ウントゥ ドランク(あソレ!)

一、雲流れ
天に怒りの満ちるとき
頭をあげろ 胸を張れ
今 対峙するは全世界
雄叫びをあげろ
戦さの剣を抜き放て (オウ!)

攻めて攻めて攻めぬいて
怒髪天衝き疾風迅雷
技刀千人関の声

すべて偉大なものたちよ
嵐の前に起て

*rep.
シュトルム ウントゥ ドランク (あソレ!)
シュトルム ウントゥ ドランク(あコリャ!)
シュトルム ウントゥ ドランク(あナンダ!)
シュトルム ウントゥ ドランク(あドシタ!)

二、山崩れ
地に怒りの満ちるとき
頭をあげる 胸を張れ
今 獲得するのは全世界
雄叫びをあげろ
戦いの犬を野に放て (ヤー!)

責めて責めて責めぬいて
怒髪天衝き櫛風淋雨
ダイナマイトが五十屯

すべて偉大なものたちよ
嵐の前に起て

*rep.

※この主題歌は劇中では使用されていません。

「紅い眼鏡」ハコ書き　――ストーリー・フローチャート――

●ACTION
栄光の機甲刑事（ケルベロス）
その悪魔の如き活躍

●命乞いをする悪党にゆっくりとモーゼル拳銃を向ける。〈STOP MOTION〉F.O

●「機甲警察の栄光と没落」

○〈夜の空港〉
軽音と共に舞い降りるジェット機
無人のロビーに降り立つ紅一
〈少女の写真〉TEL留守番電話

●監視の図（文明）

○〈対話タクシー〉
〈街〉をめぐる会話

●立喰いソバ屋の非合法化を知る(紅一慟烈)
●紅一「姿変れど……ああ、ニコライの鐘が鳴る。」

●MAIN TITLE

●〈安ホテル〉●何故か港の気配／思い入れの紅一
シャワーを浴びる
襲撃／全裸アクション（活人画）
大乱闘の末、撃退し素早く脱出。

●再び少女の写真
●奇妙なボーイとのからみ（トランク）

●モーゼル拳銃
●紅一のランボーの如き肉体
●忍びよる白塗りのコマンドたち

○〈対話タクシー〉

●牛丼屋もコンビニエンス・ストアーも何もない――→営業しているのはオールナイトの映画館のみ。

○〈映画館〉地下の暗闇へ
●モギリの少女（印象）
●閑古鳥の鳴く館内。映画を観つうたた寝。
●小生意気なチンピラをトイレで解剖し、非合法の立喰いソバ屋を聞き出す。

●監視の目（カンウター内の写真）
●ポスター〈映画〉のすべて少女のイメージ
●警視庁からのお知らせ
●チンピラとのやりとり（立喰いのプロを知らぬ世代へのイラ立ち。）

○〈もぐり立喰いソバ屋〉にて
●月見の銀二との再開・会話／街をめぐる情報。みどり、蒼一郎の近況
●銀二の語る機甲刑事の栄光
●銀二の忠告（昔の仲間は今も味方とは限らない）を背に街へ。

●月見の銀二／伝説の立喰い師
●凋落ははなはだしい銀二におごる紅一　メニューから〈天たま〉が消えている。ショックを受ける紅一
●暗い過去を秘めた客たち（監視）
●少女のポスター

（ズルズルと床に崩れる紅一／一服もられたか？）

○〈廃工場〉
●目覚める紅一／文明一派にら致されている。
●不条理な拷問（誰が売ったのか！）
文明との問答（I）――→可能性①銀二
●奇策をもって脱出する。

●室戸文明／権力者のアンニュイ。
●無意味な拷問　〈イメージとしての拷問〉
●文明「御苦労」立ち去るものの気配（密告者）
●壁に少女のポスター
●放置されたままのトランク　（誰にも見えない）
●あまりにも安直な脱出

○〈対話〉タクシー

●密告者をめぐる対話〈密告〉とは何か？

○〈撞球場〉
●蒼一郎（ハスラー）圧倒的強さで勝負に勝つ
●送り狼とのアクション　あわやの処を紅一が救う。
●蒼一郎との再開

●ハスラー蒼一郎／やさぐれ、すさみきったその表情（結咳）
●ソチャクチャビリヤード

●客（ヤクザ）たち＝文明の配下（それと判る）
●約束事のアクション
●蒼一郎のネコ

○〈蒼一郎の部屋〉
●すさみきった蒼一郎／結咳　黒猫
●記憶の堆積した室内
蒼一郎との対話／紅一を拒否する
蒼一郎
銀二の裏切り、みどりの転向を語る。
●蒼一郎と訣れ外へ、途端に腹痛（一服もられたのか？）
●一撃くらって失神する紅一

●室内の描写〈ブレードランナー〉
様々な記憶／紅一、みどり、蒼一郎
●青春の一場のスナップ／死んだ妹（少女）の遺影
●カップラーメン（猫印）ができる３分間の会話
●紅一の要請を察して拒否する蒼一郎
（その内容は判らない）

○〈再び廃工場〉
●水をあびられて目醒める紅一
／誰が売ったのか？それとも夢だったのか。
――→可能性②蒼一郎　しかし
文明の隣りに情婦然としたみどり。
再開される不条理な拷問
文明との対話（II）
以外にもみどりの手引で脱出

●蒼一郎の裏切りか？
●情婦みどり
様々な可能性、それとも蒼一郎との出会いそのものが一場の夢なのか？
●文明の強大な自信
●怪力みどり、芸のない脱出。

○〈舞踏研究所〉
●みどりの介抱を受ける紅一・目醒めるみどりとの再開・対話／紅一を拒否するみどり。
蒼一郎の転向・銀二の裏切りを語る。
（夜食を食いつつ・紅一ためらう紅一ためらうが結局食う）
案の定　激烈な腹痛を起こす紅一（一服もらったか？）
一撃くらって失神する紅一

●踊るみどり（メチャクチャ）
●みどりの飼っているブタネコ
●大飯くらうみどり
●紅一とみどりのスナップ／二人の過去のロマンス。
男と女の会話
●少女の写真
みどりの弟子　現在の恋人？

○〈映画館〉
●目醒める紅一／隣りの席に文明
誰が売ったのか？それとも映画だったのか？
――→可能性③みどり

蒼一郎、みどり転向の記録フィルムが上映される。
文明との対話（III）
とっさに銃を奪おうとして惨めに失敗(が〈然〉)
処刑寸前　乱入する蒼一郎　紅一脱出！
蒼一郎壮烈憤死
追いすがる文明一派　紅一をかばってみどり射殺される〈死の訣れ〉

●エンドレスの少女の〈映画〉
●転向フィルム〈１９８４〉
●腹のモーゼル拳銃がない！
●紅一のヒーロー性の否定＝ドジつづき
●延々とつづく長い回廊
●逃げる傍ら見ると少女の〈映画〉ばかり
●紅一の怒り
胸のモーゼル拳銃で文明の部下たちを全員射殺する。

○〈カラオケバー〉
●ようやく一室に逃げ込む／照明が点くと何故かカラオケバー
盛り上がっている一同／文明一派、蒼一郎、みどり、チンピラ、etc.
デュエットするみどりと蒼一郎
紅一に酒をすすめる文明との対話（IV）
マイクが紅一に回ってくる
唄う紅一／『紅い眼鏡』(ひき語り)
憤激する文明
突然の停電・銃声

●一気飲みのバカ騒ぎ。軽薄なる〈現在〉
●狂気の如きデカダンス
●みどりのストリップ

●『紅い眼鏡』ショーアップする

○〈対話〉タクシー
●総括的対話
●運転手ふり向くと文明／紅一発砲

●運転手　初めてその顔を見せる
●スピンして止まるタクシー
（炎上するタクシーを背に脱出）

○沛然と降る雨

○〈魔都〉＝非現実の都
少女のイメージで一杯の〈街〉をほうこうする紅一
アイデンティティを想う紅一
〈街〉が〈現在〉が〈過去〉が〈自己〉が音をたてて崩壊する。
――→〈ケルベロス〉との出会い
ゆっくりとMG34を紅一に向ける。

●〈少女都市〉
あの窓に少女
壁にはられたポスター
巨大な看板（合成）
雨に打たれる新聞の写真
ショーウインドの中のコピー
続々と吐き出される少女
●雨に打たれたちつくす己の過去との出会い

（銃声）

○〈安ホテル〉
●すさまじい顔で死んでいる紅一／運び出される。
文明「手前勝手な夢でも見てたんだろう」
文明とその部下たち　銀二　蒼一郎　みどりもいる。
紅いメガネで一杯のトランク

●文明「またか…。一帯いつになったら本物のプロテクトギアが出てくるのかな、やりきれんぜまったく」
紅一の死体はトラックに運びこまれる
その掌からこぼれ落ちる紅い眼鏡
通りかかった少女　拾いあげる　去るトラック
〈対話タクシー〉を呼び止める少女　「空港へ！」

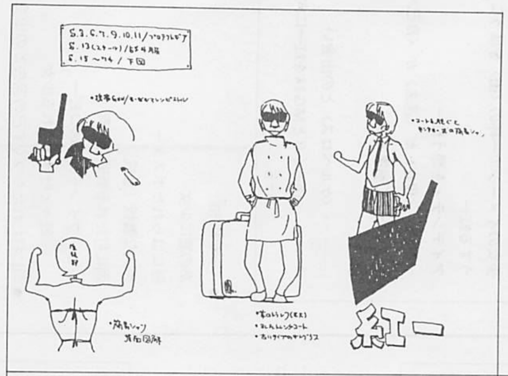
○〈空港〉
●駆け込む少女
●エスカレーターで降りてくる紅一に差し出される紅い眼鏡
〈STOP〉

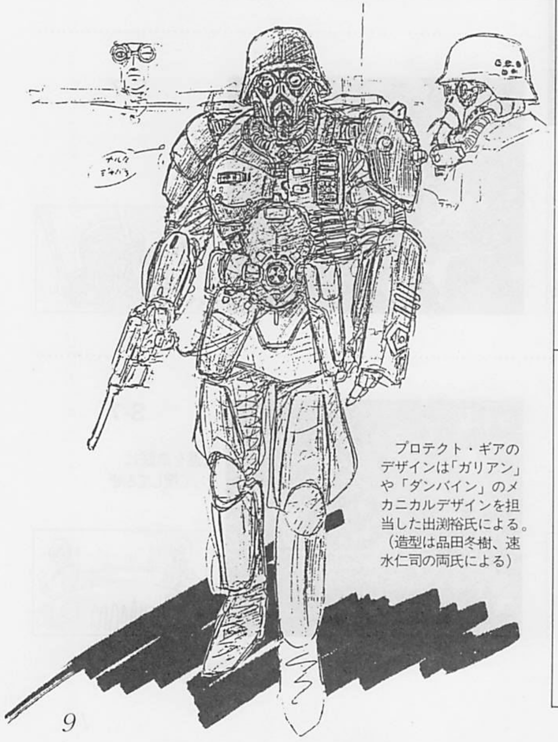
●ためらう少女
遂に差し出す

ENDING テロップ

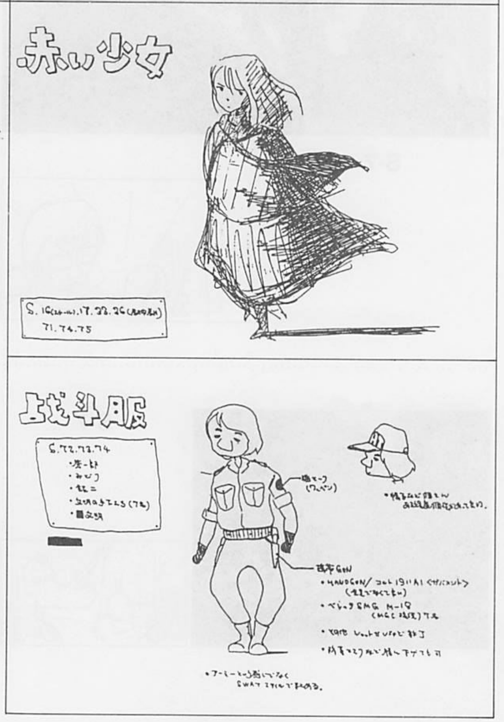
紅い眼鏡
キャラクター・コスチューム デザイン集

ここに紹介する「紅い眼鏡」登場キャラクター及びコスチュームデザインはすべて押井守監督自身によって描かれたものである。ほとんど、このデザインのまま画面に登場しているが、ベースボールウォーリアーズのように撮影の都合から除外されてしまったものもある。





プロテクト・ギアのデザインは「ガリアン」や「ダンバイン」のメカニカルデザインを担当した出渕裕氏による。（造型は品田冬樹、速水仁司の両氏による）



押井　守演出絵コンテ比較式

「紅い眼鏡」FILM STORY

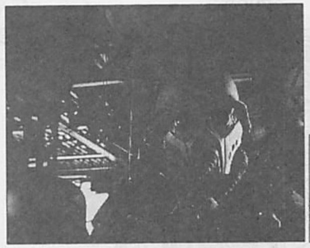
映画「紅い眼鏡」は実写映画としては、珍らしいくらいに絵コンテが重要視された。それはやはり押井守監督が、アニメーション畑の人であり、映像イメージを、スタッフ全員が絵コンテを見ることによって、撮影中今どのカットを撮影しているのかを把握してもらうためと、撮影監督にあの独特な押井守世界を的確にイメージしてもらうためでもあった。できあがった映像を見てもらうとお分りいただけると思うのだが、スクリーンに写し出された映像は正にあの押井守の世界が所狭しと、操り広げられるのであった。このフイルムストーリーは、その映像と押井守監督独特の絵コンテとの比較式にしてあるので、絵コンテによる映像イメージが、十分スタッフに浸透しえたことを意味することでもあるが、押井守監督がここまで画面づくりに徹底していたことが汲み取れることであろう。冒頭の銃撃戦のシーンでは、正にイメージ通り、イメージ以上の大迫力を醸し出しており、今までに見られなかった映像の仕上がりを見せてくれる。ここでは十分では無いがそのイメージと、映像とで押井守の世界を楽しんでいただきたい。

逃亡——すべてはそこから始まる!

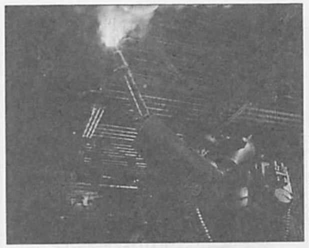
S-7

S-7

S-7

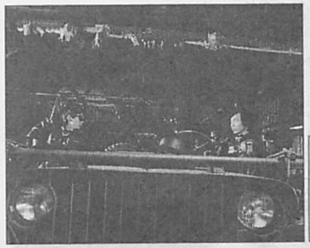


S-7



S-7

俺達を血眼になって捜してるぜ



1995年6月15日〈首都圏対凶悪犯罪特殊武装機動特捜班〉警視庁通達第209号をもって解体を決定。荷烈な弾圧の中、元特捜班上級刑事ケルベロス第一小隊の都々目紅一、鷲尾みどり、鳥部蒼一郎は逃走中に悪党たちのアジトに迷い込む、続々と跳び出す悪党たち、炸裂する銃弾！　激闘の末みどりと蒼一郎が負傷、後ろ髪の引かれる思いで、紅一は一人、迎えのヘリコプターへ向った…

S-7

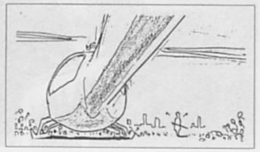
S-7

S-7

S-7

S-8

ひとり、国外へ脱出！



S-7

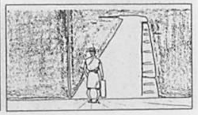
あなただけでも行って！

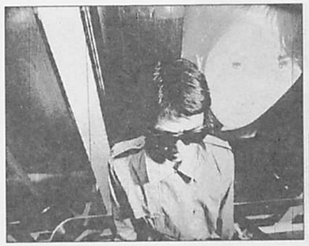
S-7

行け紅一!!

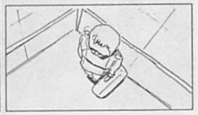
そして3年後――ヤツは帰って来た

S-15Ⓐ
〈空港〉

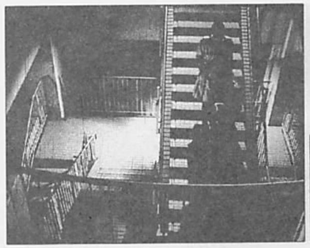




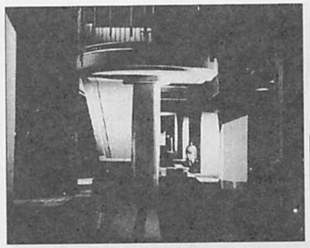
S-15Ⓑ
〈エレベーター〉



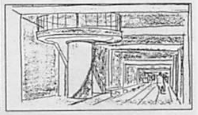
S-15Ⓑ
〈エレベーター〉

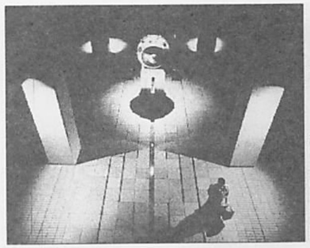


S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉

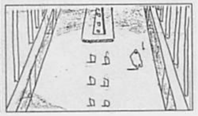


S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉

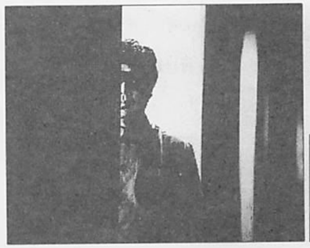




S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉
猫!?

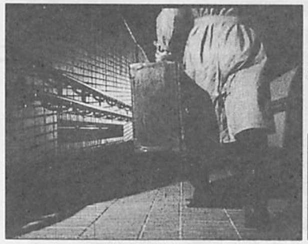


S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉
立ち止まる紅一

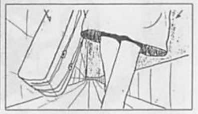


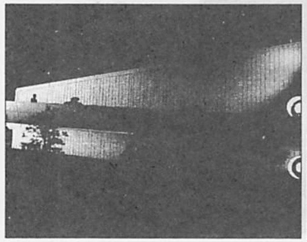
S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉
室戸文明登場！

あれから３年の時が流れた。国外逃亡の末あの〈とどめの紅一〉と恐れられた男が帰って来たのだ。大きなトランクひとつ携えて――。何の為に、何を求めて、組織の再建か？ 権力への復讐か？ 仲間を救け出す為か？ 空港で紅一を待ち構えたかのように、つけまわす謎の人物!? 紅一はその男を巧みにふりきると、一夜の宿を得るためにホテルへと向うのであった。少女の写真の意味するものは――。

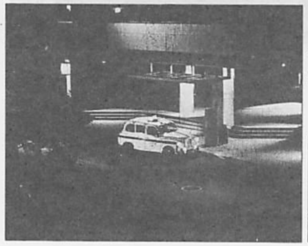


S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉
走る紅一！

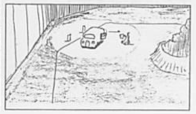


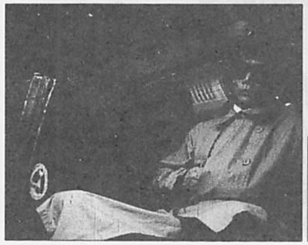


S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉

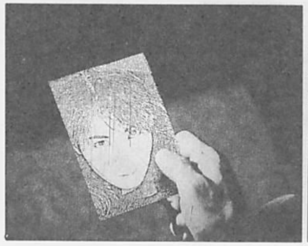


S-15Ⓒ
〈空港ターミナル〉
対話タクシーへ

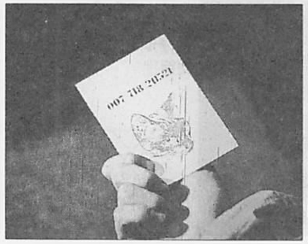




S-15Ⓓ
〈対話タクシー車内〉
コートのポケットより

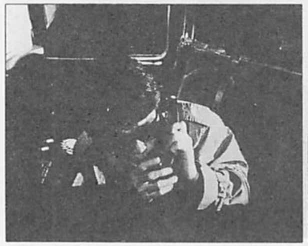


S-15Ⓓ
〈対話タクシー車内〉
一枚の写真を
少女!?



S-15Ⓓ
〈対話タクシー車内〉
裏には猫と数字

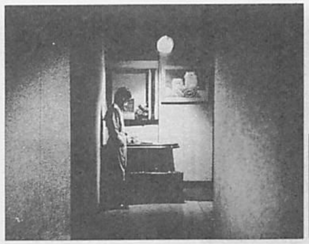
S-15Ⓓ
〈対話タクシー車内〉
何と車内に電話が



S-15Ⓓ
〈対話タクシー車内〉
オリエンタルホテルへ

オリエンタルホテル——忍びよる影、コマンド軍団!?

S-25
〈ホテル/玄関前〉
コマンド軍団登場！



S-23
〈ホテル/フロント〉

S-23
〈ホテル/フロント〉

S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
忍びよるコマンド

S-25
〈ホテル/玄関前〉
文明!?

S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
ボキッ

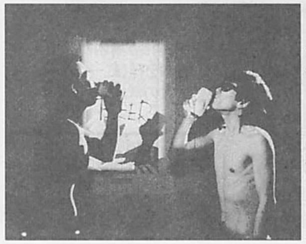
S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
忍者部隊月光か!?

ホテルにて、一時の安らぎを得た紅一はシャワーを浴びていた。そのころホテルの外では、あの男が不気味なコマンド軍団を率いて、やって来たのだ！ 忍びよるコマンド軍団、襲撃を受けた紅一は何と全裸でこれに対抗！ 引き締った体が暗の中で唸りをあげる！ 数々の必殺技を繰り出した紅一はあっと言う間にコマンド軍団を葬り去ってしまう。夜の街へと脱出するのであった——。

S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
"バキ"

S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
"ゴキ"

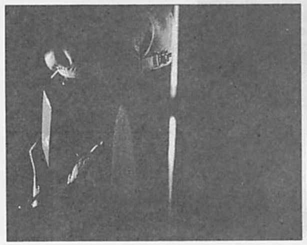
S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
鉄腕紅一



S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
ちょっと一息

S-31
〈対話タクシーII〉
お客さんいきなり
飛びおりて来るんだもん！

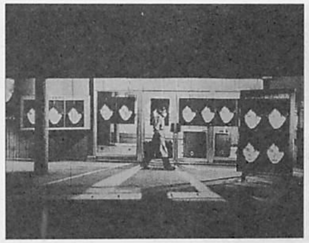
S-27
〈ホテル/2Fロビー〉
どこへ行く〜

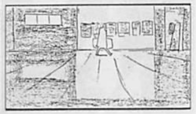


S-31
〈対話タクシーII〉
運転手その人は…。

S-31
〈対話タクシーII〉
オレは通りすがりの
観光客だ！

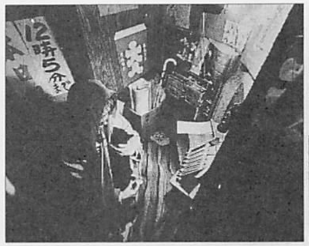
映画館——そこに持っていたものは



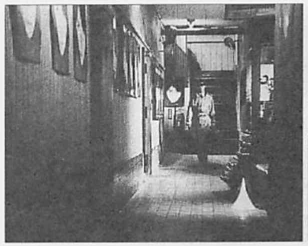


S-32
〈映画館/前〉
少女のポスターがびっしり。

S-32
〈映画館/前〉
チケットを買う紅一

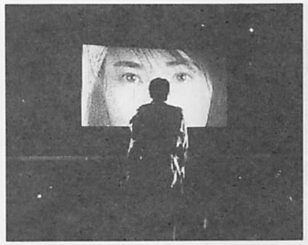


S-32
〈映画館/前〉
チケットを売るのは猫を抱いた少女——。



S-34
〈映画館/場内〉
館内を行く紅一
少女のポスター

S-34
〈映画館/場内〉
場内へ入る紅一

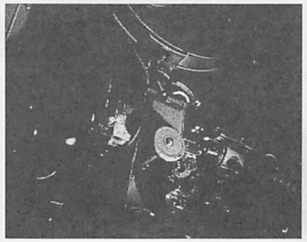


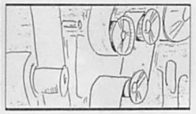
S-34
〈映画館/場内〉
少女映画

S-34
〈映画館/場内〉

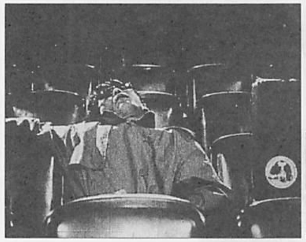
S-34
〈映画館/場内〉
塩豆をかじる紅一

場末の映画館へ来た紅一、チケットを売るのは猫を抱いた少女だった。館内も外も少女のポスターだらけである。閑古鳥の鳴く館内、紅一腰を降ろしてスクリーンに目をやる、スクリーンの中にも少女がいた。いつの間にか眠り込んだ紅一はあるチンピラの声で目を覚ます。トイレでそのチンピラをボロボロにし剰え全裸にし、あの伝説の立ち喰い師、月見の銀二のことを聞き出すのであった。

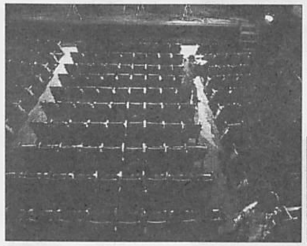


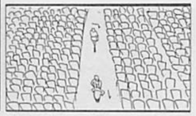


S-35
〈映写機〉
ダイナミックに回るプロジェクター

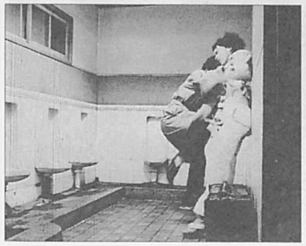


S-36
〈映画館/場内〉
寝りこけている紅一





S-36
〈映画館/場内〉
チンピラ登場



S-37
〈映画館/便所〉
チンピラをカイボウする紅一

S-37
〈映画館/便所〉
や、やめて〜〜〜くれ〜〜〜
許して——。

S-37
〈映画館/便所〉
!?

S-39
〈立喰いそば屋〉
?

暗の立喰いそば屋

伝説の立喰い師月見の銀二

S-39
〈立喰いそば屋〉
彼もまた立喰い愛好者!?

S-39
〈立喰いそば屋〉

S-39
〈立喰いそば屋〉
銀二、オゴらせて貰うぜ！

S-39
〈立喰いそば屋〉
月見の銀二もお品書きから
月見が消えちまえば
名無しの銀二さ！

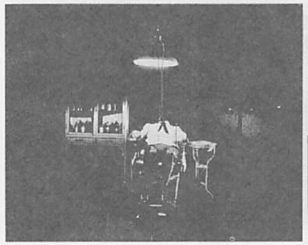
S-39
〈立喰いそば屋〉
天玉は……
無いのか!?

立ち喰いによる軽食販売禁止条令、通称立禁法が二年前から実行されている。だがいつの時代も暗屋やもぐりは、存在するものである。月見の銀二はそんなもぐりの立ち喰いそば屋にいた。今はもう御品書きからは、月見も天玉も無い、うどんとそばだけなのだ。みどりと蒼一郎の居場所を聞く紅一だが銀二は二人に会うのを何故か止めた。立ち去る紅一突如として激しい腹痛に襲われる。

S-39
〈立喰いそば屋〉
紅一よ、本当の友達てえのは
遊び友達だって言葉もあるぜ

S-40
〈映画館/便所〉
あえぐ紅一

S-39
〈立喰いそば屋〉
冷や汗たらり…



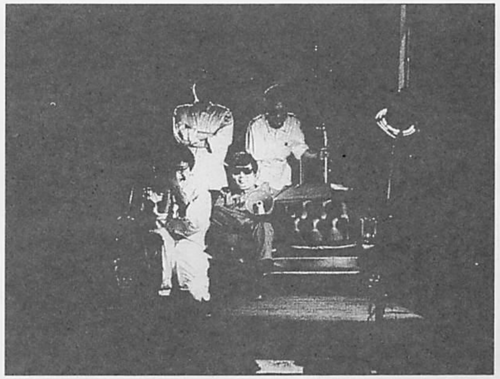
S-41
〈拷問Ⅰ〉
!?

S-40
〈映画館/便所〉
もんぜつ…

拷問室

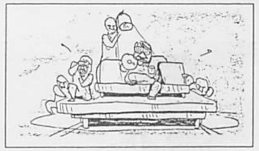
警視庁公安課　室戸文明

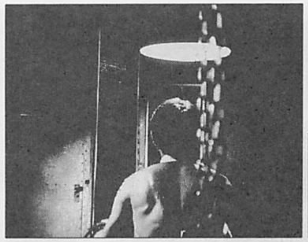
重い鉄の扉が開かれた、紅一は拷問椅子に座らせていた。不気味な連中の後からあの男が入って来た。男の名は室戸文明、警視庁公安課刑事、紅一はウイスキーによる拷問を受ける。だがまぬけな文明の手下から容易に脱出できた。



S-41

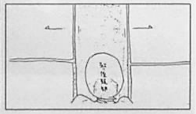
〈拷問Ⅰ〉
お目覚めかね　紅一君！





S-41

〈拷問Ⅰ〉

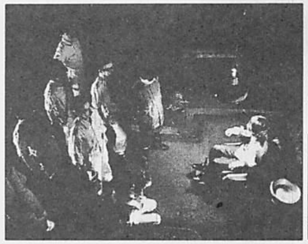


S-41

〈拷問Ⅰ〉

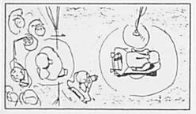
S-41

〈拷問Ⅰ〉
ここはどこだ!?
お前は何者だ！



S-41

〈拷問Ⅰ〉
腹の調子は
どうかね？



S-44

〈紅一脱出Ⅰ〉

S-43

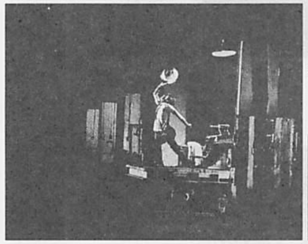
〈拷問Ⅰ〉
ぐえー。

S-44

〈紅一脱出Ⅰ〉

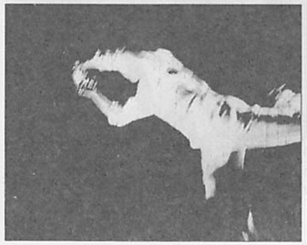
S-44

〈紅一脱出Ⅰ〉
う〜ん



S-44

〈紅一脱出Ⅰ〉
脱出、成功！



S-44

〈紅一脱出Ⅰ〉
あれ〜え

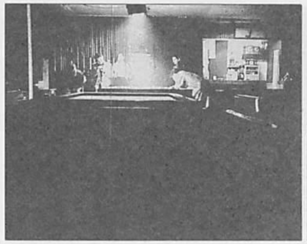
ハスラー蒼一郎

撞球場に集う者たち。

たちこめる紫煙の中、見るからに怪し気な男達がゲームに興じている。台の横で金を数える中年男、うらめしそうに台の上の球を見つめるやつれた男それが鳥部蒼一郎である。蒼一郎のキューが唸る時が来た！

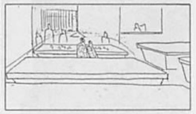
S-46

〈ビリヤード〉
早く帰って
寝ちまいな



S-46

〈ビリヤード〉
紫煙たちこめる中

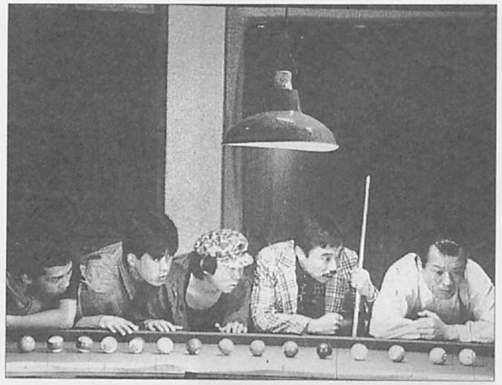


S-46

〈ビリヤード〉
札を数える男あり

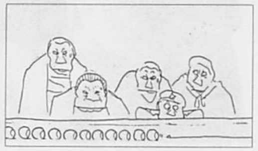
S-46

〈ビリヤード場〉
ケツの毛まで
むしるのも
仏心てえもんか？



S-46

〈ビリヤード場〉
オオッ！
惑星直列!?



S-46

〈ビリヤード場〉
やめとけヨ！

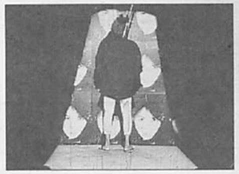
S-46

〈ビリヤード場〉
……

蒼一郎、あきらかに負けが込んでいる。賭け金を倍にして、勝負に出た。ちゃかすギャラリー達、中年男は言う「ケツの毛までむしるのが仏心ってもんか」台に向う蒼一郎、一瞬、凄惨とも言えるすさまじい笑みを浮かべてキューをくり出す！　球の行方も見えずに台に背を向けた、まるで物理法則を無視したようにめまぐるしい突進と激突をくり返す球の嵐！中年男以下、呆然と見る中を、蒼一郎は札束を無雑作に懐に入れ立ち去っていった。

蒼一郎救出作戦！

蒼一郎の必殺技に気分を害された中年男は手下の男達を指し向けた。逃げる蒼一郎、追う男達！純喫茶〈再会〉の前に現れた男は、紅一その人であった。救出作戦開始！　走る男達、蒼一郎、紅一、決定打を放ったのは蒼一郎本人！

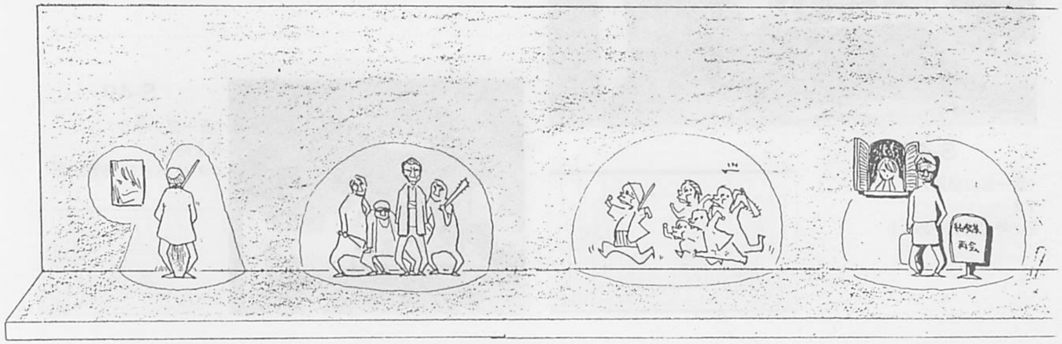


鼻歌まじりに…

エライ面白ィマネしてくれるやんケ！

マテーッ！

蒼ッ！

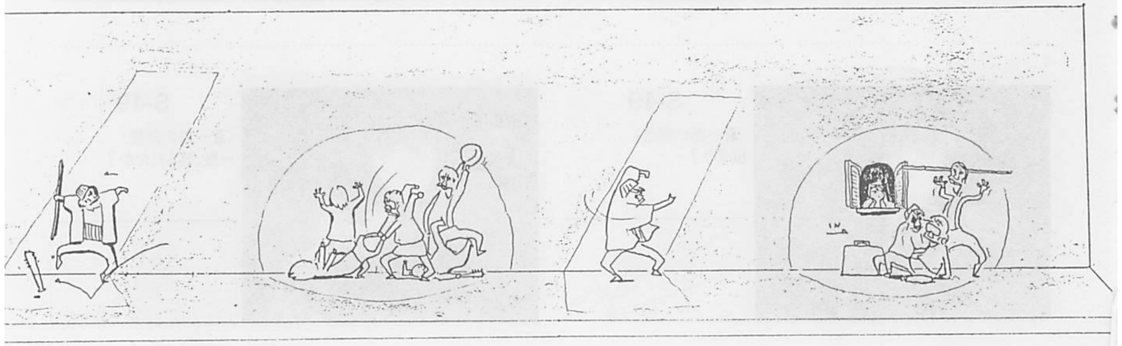


コソコソ逃げる蒼一郎

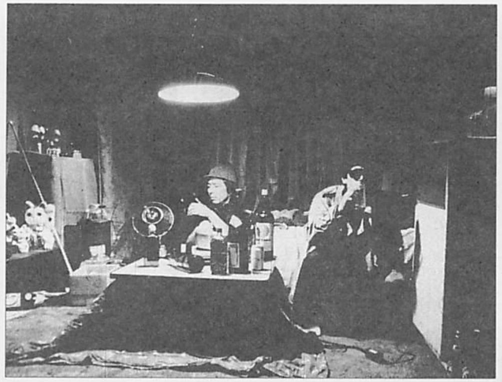
紅一ガンバる

キューを投げる蒼一郎

ガーン！

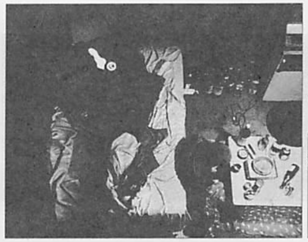


蒼一郎の部屋——昔の友は今日の敵!?



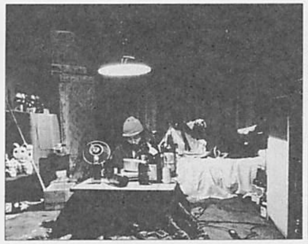
S-49

〈蒼一郎の部屋〉
アオ……
その呼び方はやめろ！



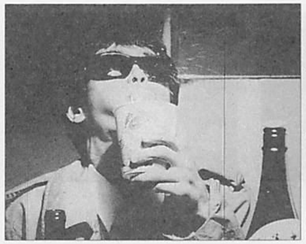
S-49

〈蒼一郎の部屋〉
アオ……
どこにいる。



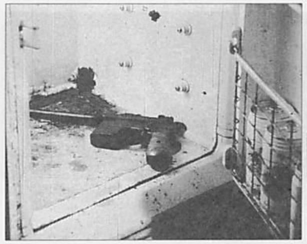
S-49

〈蒼一郎の部屋〉
猫を抱いて
コタツに入っている蒼一郎



S-49

〈蒼一郎の部屋〉
ブフォッ！



S-49

〈蒼一郎の部屋〉
冷蔵庫の中の
モーゼル

S-49

〈蒼一郎の部屋〉
裏切り？

S-49

〈蒼一郎の部屋〉
一服、盛られたか？

目を覚ます紅一、そこは蒼一郎の部屋だった。数少ない家具と無数の酒瓶が転がっている、猫を抱きコタツに入っている蒼一郎、カップラーメンを食べる二人の間に延々と交わされる会話、だが又しても激しい腹痛に襲われる紅一、そして目覚めたのはあの拷問室であった。文明登場、そしてその測に座る情婦然とした女こそは鷲尾みどりであった。でも以外や以外、紅一を救出したのはみどり本人。

S-53

〈廃工場/拷問II〉
文明の隣りに座る女

S-53

〈廃工場/拷問II〉

S-53

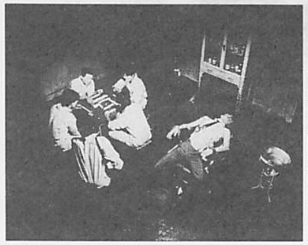
〈廃工場/拷問II〉
犬は飼い主のことは
ちゃんと覚えてるものだよ……

S-53

〈廃工場/拷問II〉
みどり！

S-53

〈廃工場/拷問II〉
お夜食よーん！



S-53

〈廃工場/拷問II〉
オマエそんなんだから
カーチャンに逃げられる
んだゼ！

S-53

〈廃工場/拷問II〉
ドオッ

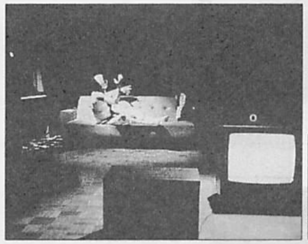
S-53

〈廃工場/拷問II〉
ガーン！

ロマンス――哀恋の日々……

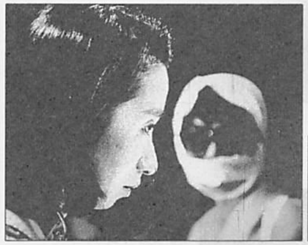
S-54

〈舞踏研究所/内〉
………



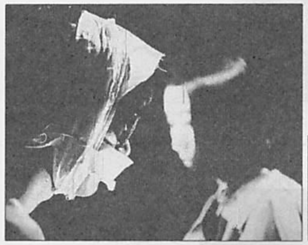
S-54

〈舞踏研究所/内〉
ミイラ男の復活



S-54

〈舞踏研究所/内〉
紅一……



S-54

〈舞踏研究所/内〉
みどり……

S-56

〈地下道〉
少女の街へ……

S-56

〈地下道〉
そして再び

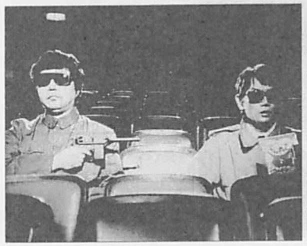
鷲尾舞踏研究所、ミイラ男の様な紅一の身体を気づかうみどり、つけたままのテレビのブラウン管の蒼白い光が二人を照し出す。殺しの日々の中秘めた想いを告げられず、胸を痛めた相手が紅一だったと告白するみどり。再び映画館、眠りこけている紅一ハッと目覚めると隣の席に文明が座っている。スクリーンに映し出されるみどり、蒼一郎の過去！　文明の奇妙な尋問が館内に響く。

S-59

〈映画館/内〉
何度、繰り返せば

S-59

〈映画館/内〉
揺れる少女



S-59

〈映画館/内〉
気が済むのかね

S-59

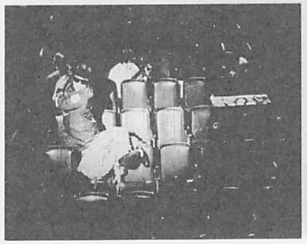
〈映画館/内〉
いつからそこに居る

S-59

〈映画館/内〉
黙って見たまえ
君にはこれを見る
義務がある！

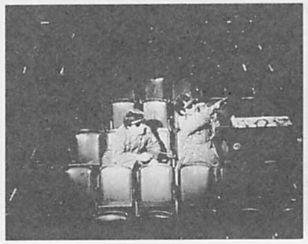
S-59

〈映画館/内〉
私が？
それとも君がかね？



S-59

〈映画館/内〉
ドテッ！



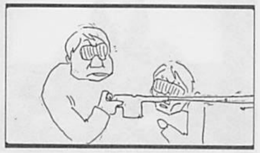
S-59

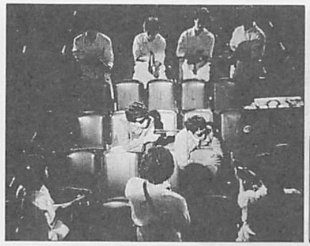
〈映画館/内〉
アッ！あれ何だ！

脱出！——文明VS紅一

S-59

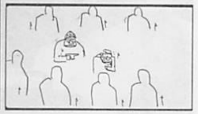
〈映画館/内〉
んがっ!?





S-59

〈映画館/内〉
コマンド!?



S-59

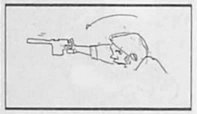
〈映画館/内〉
蒼一郎!?

S-59

〈映画館/内〉
うわーッ

S-59

〈映画館/内〉
行け！紅一



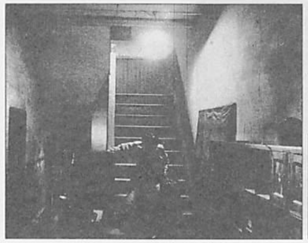
S-59

〈映画館/内〉
エッ!?

S-59

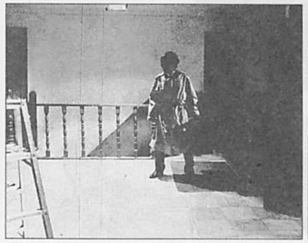
〈映画館/内〉
行け〜〜っ！

文明のコマンド軍団に取り囲まれた紅一、絶体絶命！　そこへ何故かキューが文明のモーゼル拳銃の銃口を塞いだ。蒼一郎の捨て身の作戦によって紅一は脱出！　みどりの協力もあり、この街から逃亡を計るが、階段を登ればそこはホテルのロビー、立ち喰いそば屋の入口のトイレも今はただのトイレ、もちろんそば屋も無くなっている、タクシーの運転手が文明に!?　だがそれも人形に変わってしまった。



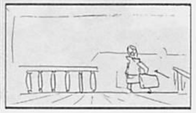
S-56

〈迷宮〉
そば屋!?



S-65

〈迷宮〉
ホテルの2F!?



S-65

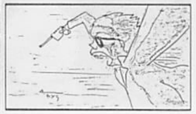
〈迷宮〉
あなたならきっと
出口を見つけられる！

S-65

〈迷宮〉
舞踏研究所！

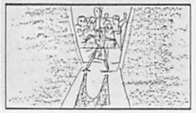
S-65

〈回廊〉
オリャーッ！



S-65

〈迷宮〉
早く行ってーっ



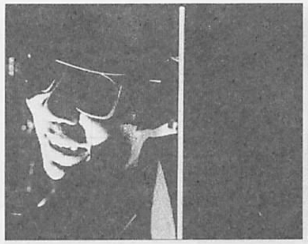
S-69

〈対話タクシーIII〉
お前は誰だ！

S-68

〈逃亡〉
巨大な側溝を行く

少女の街——紅一最後の逃亡

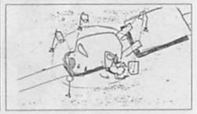


S-69

〈対話タクシーIII〉
文明!?

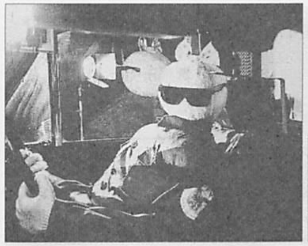
S-69

〈対話タクシーIII〉
狂乱の紅一



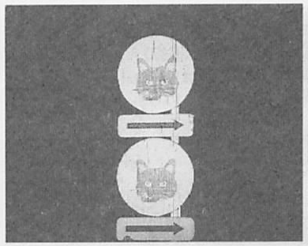
S-69

〈対話タクシーIII〉
廃工場の中の
タクシー



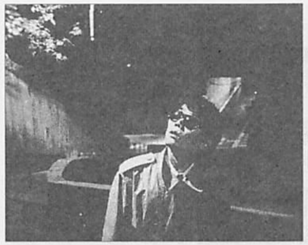
S-69

〈対話タクシーIII〉
人形!?



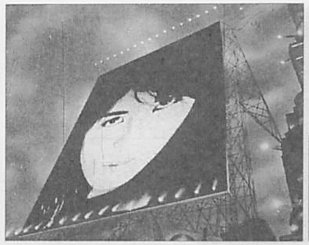
S-71Ⓗ

〈魔都〉
猫の街か？



S-71Ⓗ

〈魔都〉
見上げる紅一



S-71

〈魔都〉
巨大な少女の看板

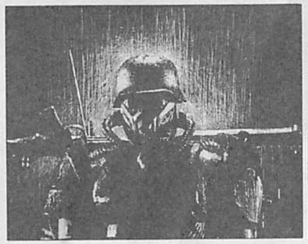
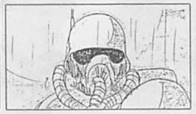
S-71

〈魔都〉
少女の街

あても無くさまよう紅一、その頭上一少女の巨大な看板がある。ここはあの少女の街なのか!?紅一の眼前に少女が姿を現す、少女に導びかれて行く紅一、そして雨に打たれてプロテクトギアが立っている。銃声一、流れる水音、バスルームですさまじい形相で死んでいる紅一、トランクの中は紅い眼鏡で一杯であった。夜明けの予感のする中、少女を乗せたタクシーが何処へとも無く走り去っていった。

S-71Ⓙ

〈魔都/ドッペルゲンガー〉
少女？

S-71

〈魔都/ドッペルゲンガー〉
プロテクトギア!?

S-72

〈ホテル/バスルーム〉
紅一何とも言えぬ
死に顔

S-73

〈ホテル/2Fロビー〉
まったくいつになったら
本物のプロテクトギアが
出て来るんだ……

S-75

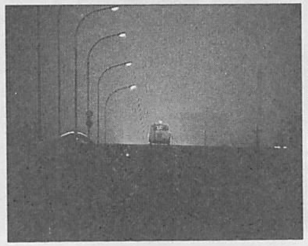
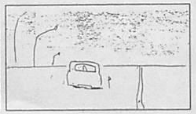
〈対話タクシーIV/少女〉
我々人間は
夢と同じもので
織りなされている

S-75

〈対話タクシーIV/少女〉
お嬢さんが
お出迎えする夢は
どんな夢です？

S-75

〈対話タクシーIV/少女〉
〈少女〉ゆっくりと
赤くなって
行く

S-75

〈対話タクシーIV/少女〉
夜明けの気配
去って行くタクシー

企画　紅い眼鏡制作委員会
製作　株式会社オムニバスプロモーション

監督　押井　守
プロデューサー　斯波重治
林　大介
脚本　伊藤和典
押井　守
撮影監督　間宮庸介
照明監督　保坂芳美
助監督　伊藤和典

撮影助手　高村俊昭
太田敏裕
・
野本康夫
照明助手　林　方谷
小川　満
細谷育男
寺崎裕次
村上将之
出口秀男
野本　拓
演出助手　太田聡史
松井幸夫
美術製作　神野ひろあき
三牧哲二
記録　甲斐哲子
制作主任　糠塚忠幸
制作進行　永原克紀
オーディオプランナー　浅梨なおこ
効果　依田安文
フィスサウンドクリエーション
調整　桑原邦男
音楽　川井憲次
録音スタッフ　村田弘之
テクノサウンド
録音スタジオ　ニュージャパンスタジオ
サウンドリーレコ現像　東京テレビセンター

タイトルデザイン　栗本貴之
プロテクトギアデザイン　出渕　裕
コスチューム製作　品田冬樹
マスク製作　速水仁司
エンブレムデザイン　高田明美
エンブレム製作　外川　佑
造形アドバイザー　安井尚志
ファイアエフェクト　納富貴久男
唐沢裕一
石井正雄
牧野悦夫
BIG SHOT
マット画　開田裕治
衣裳縫製　清水英代
メイク　金森　恵
スチール撮影　樋上晴彦
カメラ機材　映像サービス
照明機材　三和照明
三穂電機
協力　金子富太郎
クループ会長
金子タクシー
協賛　㈱プロデュース/プレイヤー
海洋堂ホビー館
GUN & HOBBY むげん
バンダイ静岡工場 B-CLUB
F F G
ロケーション協力　山形県上山 トキワ館
劇団 青 杜
ニュージャパンスタジオ
山形空港
キネカ大森
製作協力　久保　真
渡辺　繁
鵜之沢　伸
鈴木敏夫
新保昌宏
杉本五郎
タイトル　兵頭タイトル
撮影協力　スタジオぎゃろっぷ
編集　森田編集室
現像　東京現像所

出演

都々目紅一　千葉　繁
鷲尾みどり　鷲尾真知子
鳥部蒼一郎　田中秀幸

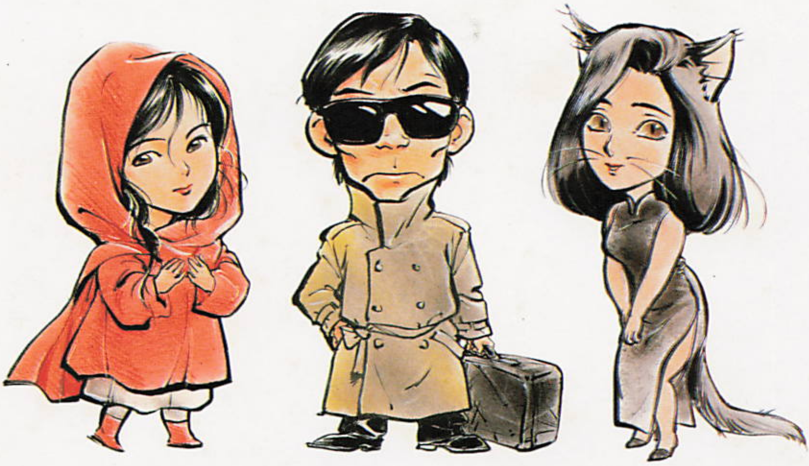
室戸文明　玄田哲章
少女　兵藤まこ
雀球場の中年男　永井一郎
タクシーの運転手　大塚康生

ホテルのフロント　及川ヒロオ
ヤクサA　兼松　隆
ヤクサB　古川登志夫
チンピラ　西村智博
文明の部下たち　中村秀利
平井隆博
立木文彦
船戸健行
中村大樹
三井善忠
上部光弘
用心棒　吉永尚之
調理人　品田冬樹
雀球場のマスター　田内和夫
パイロット　栗崎教雄
(中日本航空)
空港アナウンス　平野　文
猫　伊藤乃良

海坊主　坂田金太郎
タクシーの運転手の声　永井一郎

月見の銀二　天本英世

出演協力　クロキプロダクション
青二プロダクション
ぷろだくしょんバオバブ
クリエイティヴ・カンパニー・プロジェクトレヴュー
劇舎バーストマン
トルバトール音楽事務所
東京工学院映画科



紅い眼鏡

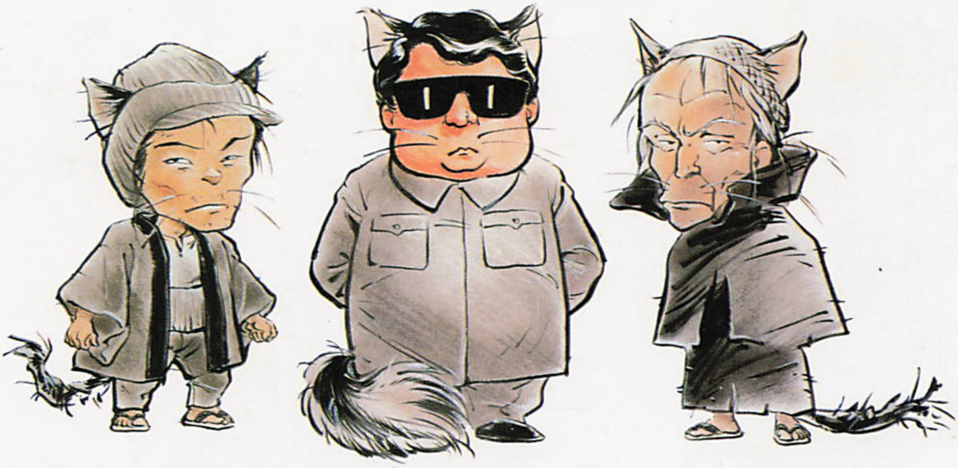


ILLUSTRATION by AKEMI TAKADA

©オムニバスプロモーション